

昭和十三年法律第二十三號第一條ノ規定ニ依リ關東局、朝鮮總督府、臺灣總督府及樺太廳ノ各特別會計ヨリ臨時軍事費特別會計ニ繰入ルベキ金額ハ當該特別會計ニ於ケル所得稅、法人資本稅、清涼飲料稅、砂糖消費稅、取引所稅、出港稅、印紙稅又ハ臨時利得稅ノ昭和十三年度以降ノ増徴ニ因ル增收額ト利益配當稅、公債及社債利子稅、通行稅、入場稅、特別入場稅、物品稅、建築稅、遊興飲食稅又ハ遊興稅ノ創設ニ因ル收入額トノ合計額ヨリ徵稅費ヲ控除シタル殘額ニ相當スル金額ノ八割トス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大 藏 省

理由書

昭和十三年法律第二十三號第一條ノ規定ニ依リ關東局、朝鮮總督府、臺灣總督府及樺太廳ノ各特別會計ヨリ臨時軍事費特別會計ニ繰入ルベキ金額ヲ定ムルノ要アルニ依ル

大藏省

參照

●昭和十三年法律第二十三號（關東局、朝鮮總督府、臺灣總督府及樺太廳ノ各特別會計ニ於ケル租稅收入ノ一部ニ相當スル金額等ヲ臨時軍事費特別會計ニ繰入ルルコトニ關スル法律）

昭和十三年三月二十三日
法律第二十三號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル關東局、朝鮮總督府、臺灣總督府及樺太廳ノ各特別會計ニ於ケル租稅收入ノ一部ニ相當スル金額等ヲ臨時軍事費特別會計ニ繰入ルルコトニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
(總理、大藏、拓務大臣副署)

第一條 關東局、朝鮮總督府、臺灣總督府及樺太廳ノ各特別會計ニ於ケル所得稅、法人資本稅、清涼飲料稅、砂糖消費稅、取引所稅、出港稅、印紙稅又ハ臨時利得稅ノ昭和十三年度以降ノ増徴ニ因ル增收額及利益配當稅、公債及社債利子稅、通行稅、入場稅、特別入場稅、物品稅、建築稅、遊興飲食稅又ハ遊興稅ノ創設ニ因ル收入額中勅令ノ定ムル金額ハ毎年度豫算ノ定ムル所ニ依リ之ヲ當該特別會計ヨリ臨時軍事費特別會計ニ繰入ルベシ

內
閣

第二條 朝鮮總督府及臺灣總督府ノ各特別會計ニ於ケル今回ノ煙草定價改正ニ因ル昭和十三年度以降ノ專賣收入増加額ニ相當スル金額ハ其ノ八割ヲ限リ毎年度豫算ノ定ムル所ニ依リ之ヲ當該特別會計ヨリ臨時軍事費特別會計ニ繰入ルベシ

第三條 關東局、朝鮮總督府、臺灣總督府及樺太廳ノ各特別會計ニ於ケル北支事件特別稅收入額ヨリ徵稅費ヲ控除シタル殘額ニ相當スル金額ハ豫算ノ定ムル所ニ依リ之ヲ當該特別會計ヨリ臨時軍事費特別會計ニ繰入ルベシ

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和十四年勅令第二十八號ヲ以テ昭和十四年二月十日ヨリ施行)
昭和十二年法律第五十一號ハ之ヲ廢止ス

日本標準規格14列(十一行全)

3

大甲第五八號

起 昭和十五年三月二十五日

閣議 昭和十五年三月二十五日 施行

昭十五年四月一日 公布

內閣總理大臣 

內閣書記官 

內閣書記官 

外務大臣



陸軍大臣



文部大臣



遞信大臣



厚生大臣



內務大臣



海軍大臣



農林大臣



鐵道大臣



大藏大臣



司法大臣



商工大臣



拓務大臣



別紙兩院ノ議決ヲ經タル昭和十三年法律第二十三號
中改正法律案ヲ審査スルニ右ハ貴族院

議長上奏ノ通裁可ヲ奏請セラレ可然ト認ム

上諭 案

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル 昭和十三年法律

第二十三號中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ

公布セシム

御名 御璽

昭和十五年 三月三十日

内閣總理大臣

大藏大臣

拓務大臣

法律第七十七號

(上奏ノ通)

内閣

貴族院ハ兩院ノ議ヲ經タル
昭和十三年法律第二十三號中
改正法律案ノ裁可ヲ奏請ス

昭和十五年三月二十四日

貴族院議長伯爵松平賴壽



昭和十三年法律第二十三號中左ノ通改正ス

第一條中「所得稅」ノ下ニ「營業收益稅」ヲ、「法人資本稅」ノ下ニ「酒造稅」ヲ、「臨時利得稅」ノ下ニ「及關東局及樺太廳ノ各特別會計ニ於ケル外貨債特別稅、揮發油稅又ハ資本利子稅」ヲ加ヘ「增收額及」ヲ「增收額並ニ關東局、朝鮮總督府、臺灣總督府及樺太廳ノ各特別會計ニ於ケル特別法人稅、配當稅」ニ改ム

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

昭和十三年法律第二十三號中
改正法律案

右衆議院ノ議決ヲ經タル政府提出案本院ニ於
テ可決セリ依テ御執奏相成度議院法第三十一
條ニ依リ此段申進候也

昭和十五年三月二十四日

貴族院議長伯爵松平賴壽



内閣總理大臣米内光政殿



昭和十三年法律第二十三號中改正法律
案帝國議會へ提出ノ件
右謹テ裁可ヲ仰ク

昭和十五年二月十五日

內閣總理大臣米內光政



大甲五八

二月十五日裁可

昭和十五年二月 日

内閣書記官長

内閣書記官

内閣總理大臣 及

法制局長官

外務大臣



陸軍大臣



文部大臣



逓信大臣



厚生大臣



内務大臣



海軍大臣



農林大臣



鐵道大臣



大藏大臣



司法大臣



商工大臣



拓務大臣



別紙大藏拓務兩大臣請議昭和十三年法

律第二十三號中改正法律案

ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ請議ノ通

法制局

昭和十三年法律第二十三號中改正法律案

右

勅旨ヲ奉シ帝國議會ニ提出ス

昭和十五年 二月十六日

衆

內閣總理大臣

大藏大臣

拓務大臣

昭和十五年二月五日
 大藏省
 大蔵省
 大蔵省

主任者主計局調査課長前田大藏書記官



深澤

法制局

督府、臺灣總督府及樺太廳ノ各特別會計ニ於ケル今回
 ノ租稅ノ増徴又ハ新稅ノ創設ニ因ル租稅收入ノ一部ニ相當スル金額ヲ
 臨時軍事費特別會計ニ繰入ルルコトトスル爲昭和十三年法律第二十三
 號中改正ヲ爲スノ必要アルヲ以テ右ニ關スル法律案ヲ第七十五回帝國
 議會ニ提出セントス

昭和十五年二月五日

大藏大臣 櫻 内 幸



大甲五八

大藏省

昭和十三年法律第二十三號中左ノ通改正ス

第一條中「所得稅」ノ下ニ「^酒酒造稅」ヲ加ヘ「臨時

利得稅」ノ下ニ「及關東局及樺太廳ノ各特別會計ニ於ケル外貨債特別稅、揮發油稅又ハ資本利子稅」ヲ加ヘ「增收額及」ヲ「增收額竝ニ關東局、朝鮮總督府、臺灣總督府及樺太廳ノ各特別會計ニ於ケル特別法人稅、配當稅、」ニ改ム

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

拓務大臣 小磯 國

昭



內閣總理大臣 米內 光政 殿

大藏省

昭和十三年法律第二十三號中改正法律案理由書

關東局、朝鮮總督府、臺灣總督府及樺太廳ノ各特別會計ニ於ケル今回ノ租稅ノ增徴又ハ新稅ノ創設ニ因ル租稅收入ノ一部ニ相當スル金額ヲ臨時軍事費特別會計ニ繰入ルルコトトスル爲昭和十三年法律第二十三號中改正ヲ要スルモノアリ是レ本案ヲ提出スル所以ナリ

參照

●昭和十三年法律第二十三號（關東局、朝鮮總督府、臺灣總督府及樺太廳ノ各特別會計ニ於ケル租稅收入ノ一部ニ相當スル金額等ヲ臨時軍事費特別會計ニ繰入ルコトニ關スル法律）

昭和十三年三月二十三日
法律第二十三號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル關東局、朝鮮總督府、臺灣總督府及樺太廳ノ各特別會計ニ於ケル租稅收入ノ一部ニ相當スル金額等ヲ臨時軍事費特別會計ニ繰入ルコトニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏、拓務大臣副署）

第一條 關東局、朝鮮總督府、臺灣總督府及樺太廳ノ各特別會計ニ於ケル所得稅、法人資本稅、清涼飲料稅、砂糖消費稅、取引所稅、出港稅、印紙稅又ハ臨時利得稅ノ昭和十三年度以降ノ増徴ニ因ル增收額及利益配當稅、公債及社債利子稅、通行稅、入場稅、特別入場稅、物品稅、建築稅、遊興飲食稅又ハ遊興稅ノ創設ニ因ル收入額中勅令ノ定ムル金額ハ毎年度豫算ノ定ムル所ニ依リ之ヲ當該特別會計ヨリ臨時軍事費特別會計ニ繰入ルベシ



第二條

朝鮮總督府及臺灣總督府ノ各特別會計ニ於ケル今回ノ預算定價改
正ニ因ル昭和十三年度以降ノ專賣收入増加額ニ相當スル金額ハ其ノ八割
ヲ限リ毎年度豫算ノ定ムル所ニ依リ之ヲ當該特別會計ヨリ臨時軍事費特
別會計ニ繰入ルベシ

第三條

關東局、朝鮮總督府、臺灣總督府及樺太廳ノ各特別會計ニ於ケル
北支事件特別稅收入額ヨリ徵稅費ヲ控除シタル殘額ニ相當スル金額ハ豫
算ノ定ムル所ニ依リ之ヲ當該特別會計ヨリ臨時軍事費特別會計ニ繰入ル
ベシ

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和十四年勅令第二十八號ヲ以
テ昭和十四年二月十日ヨリ施行)
昭和十二年法律第五十一號ハ之ヲ廢止ス

大日本帝國政府

●昭和十三年法律第二十三號（關東局、朝鮮總督府、臺灣總督府及樺太廳ノ各特別會計ニ於ケル租稅收入ノ一部ニ相當スル金額等ヲ臨時軍事費特別會計ニ繰入ルルコトニ關スル法律）

昭和十三年三月二十三日
法律第二十三號

改正 昭和十四年（朱書ノ通改正セントス）
第三十四號

第一條 關東局、朝鮮總督府、臺灣總督府及樺太廳ノ各特別會計ニ於ケル所得稅、^{營業收益稅}法人資本稅、營業收益稅、酒造稅、清涼飲料稅、砂糖消費稅、取引所稅、出港稅、印紙稅又ハ臨時利得稅及關東局及樺太廳ノ各特別會計ニ於ケル外貨債特別稅、揮發油稅又ハ資本利子稅ノ昭和十三年度以降ノ增徴ニ因ル增收額並ニ關東局、朝鮮總督府、臺灣總督府及樺太廳ノ各特別會計ニ於ケル特別法人稅、配當稅、利益配當稅、公債及社債利子稅、通行稅、入場稅、特別入場稅、物品稅、

大日本帝國政府

建築税、遊興飲食税又ハ遊興税ノ創設ニ因ル收入額中勅令ノ定ムル金額ハ毎年度豫算ノ定ムル所ニ依リ之ヲ當該特別會計ヨリ臨時軍事費特別會計ニ繰入ルベシ

第二條 朝鮮總督府及臺灣總督府ノ各特別會計ニ於ケル今回ノ煙草定價改正ニ因ル昭和十三年度以降ノ專賣收入増加額ニ相當スル金額ハ其ノ八割ヲ限り毎年度豫算ノ定ムル所ニ依リ之ヲ當該特別會計ヨリ臨時軍事費特別會計ニ繰入ルベシ

第三條 關東局、朝鮮總督府、臺灣總督府及樺太廳ノ各特別會計ニ於ケル北支事件特別税收入額ヨリ徵税费ヲ控除シタル殘額ニ相當スル金額ハ豫算ノ定ムル所ニ依リ之ヲ當該特別會計ヨリ臨時軍事費特別會計ニ繰入ルベシ

大日本帝國政府

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
(昭和十四年勅令第二十八號ヲ以テ
昭和十四年二月十日ヨリ施行)
昭和十二年法律第五十一號ハ之ヲ廢止ス

附則 (昭和十四年法律第三十四號改正)
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

昭和十三年法律第二十三號中改正法律案

昭和十三年法律第二十三號中左ノ通改正ス

第一條中「所得稅」ノ下ニ「營業收益稅」ヲ、「法人資本稅」ノ下ニ「酒造稅」ヲ、「臨時利得稅」ノ下ニ「及關東局及樺太廳ノ各特別會計ニ於ケル外貨債特別稅、揮發油稅又ハ資本利子稅」ヲ加ヘ「增收額及」ヲ「增收額竝ニ關東局、朝鮮總督府、臺灣總督府及樺太廳ノ各特別會計ニ於ケル特別法人稅、配當稅」ニ改ム

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

昭和十三年法律第二十三號中改正法律案理由書

關東局、朝鮮總督府、臺灣總督府及樺太廳ノ各特別會計ニ於ケル今回ノ租稅ノ增徴又ハ新稅ノ創設
ニ因ル租稅收入ノ一部ニ相當スル金額ヲ臨時軍事費特別會計ニ繰入ルルコトトスル爲昭和十三年
法律第二十三號中改正ヲ要スルモノアリ是レ本案ヲ提出スル所以ナリ

參照

昭和十三年法律第二十三號ハ關東局、朝鮮總督府、臺灣總督府及樺太廳ノ各特別會計ニ於ケル租稅收入ノ一部ニ相當スル金額等ヲ臨時軍事費特別會計ニ繰入ルルコトニ關スル法律ナリ

大甲第六三號

案起

昭和十五年三月三十日

閣議決定
昭和十五年三月三十日施行

昭和十五年四月一日公布

內閣總理大臣



內閣書記官長



內閣書記官



外務大臣



陸軍大臣



文部大臣



逓信大臣



厚生大臣



內務大臣



海軍大臣



農林大臣



鐵道大臣



大藏大臣



司法大臣



商工大臣



拓務大臣



別紙兩院ノ議決ヲ經タル金資金特別會
計法中改正法律案ヲ審査スルニ右ハ貴族院

議長上奏ノ通裁可ヲ奏請セラレ可然ト認ム

上諭

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル金資金特別

會計法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ

公布セシム

御名 御璽

昭和十五年三月三十日

内閣總理大臣

大藏大臣

法律第七十八號

(上奏ノ通)

内閣

貴族院ハ兩院ノ議ヲ經タル金
資金特別會計法中改正法
律案ノ裁可ヲ奏請ス

昭和十五年三月二十四日

貴族院議長伯爵松平頼壽



貴族院
議事録
卷之...

金資金特別會計法中左ノ通改正ス

第三條第一項中「五千萬圓」ヲ「一億圓」ニ改メ「産金ノ増加」ノ下ニ「及金ノ集中」ヲ加フ

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

金資金特別會計法中改正法律案

右衆議院ノ議決ヲ經タル政府提出案本院ニ於
テ可決セリ依テ御執奏相成度議院法第三十一
條ニ依リ此段申進候也

昭和十五年三月二十四日

貴族院議長伯爵松平賴壽



内閣總理大臣米内光政殿



金資金特別會計法中改正法律案
帝國議會へ提出ノ件

右謹テ裁可ヲ仰ク

昭和十五年二月十二日

內閣總理大臣米內光政



大甲六三

昭和十五年二月十二日裁可

昭和十五年二月十二日

内閣書記官長

内閣書記官

内閣總理大臣 五

法制局長官



外務大臣

五

陸軍大臣

五

文部大臣

五

逓信大臣

五

厚生大臣

五

内務大臣

五

海軍大臣

五

農林大臣

五

鐵道大臣

五

大藏大臣

五

司法大臣

五

商工大臣

五

拓務大臣

五

別紙大藏大臣請議金資金特別會

計法中改正法律案

ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ請議ノ通

閣議決定帝國議會ニ提出セラレ可然ト認ム

法 律 案

呈 案ノ 通

金資金特別會計法中改正法律案

右

勅旨ヲ奉ジ帝國議會ニ提出ス

昭和十五年二月十二日

衆

內閣總理大臣

大藏大臣

承知

子+6

4/14/1

2/10/10

主任者主計局調査課長前田大藏書記官

現下ノ時局ニ顧ミ産金ノ増加及金ノ集中ヲ促進スル爲金資金特別會計
法中改正ヲ爲スノ必要アルヲ以テ右ニ關スル法律案ヲ第七十五回帝國
議會ニ提出セントス
仍テ別紙法律案竝ニ同理由書ヲ具シ茲ニ閣議ヲ請フ

昭和十五年二月十日

大藏大臣 櫻 内 幸 雄



内閣總理大臣 米 内 光 政 殿

大甲六三

大藏省

金資金特別會計法中左ノ通改正ス

第三條第一項中「五千萬圓」ヲ「二億圓」ニ改メ「産金ノ増加」ノ下
ニ「及金ノ集中」ヲ加フ

附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大 藏 省

金資金特別會計法中改正法律案理由書

現下ノ時局ニ顧ミ産金ノ増加及金ノ集中ヲ促進スル爲金資金特別會計
法中改正ヲ要スルモノアリ是レ本案ヲ提出スル所以ナリ

大
藏
省

●金資金特別會計法

改正 昭和十三年第三六號
昭和十二年八月十一日
法律第六十一號
朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル金資金特別會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
(總理、大藏大臣副署)

金資金特別會計法

第一條 金資金ヲ置キ其ノ歳入歳出ハ一般ノ會計ト區分シ特別會計ヲ設置ス

第二條 金準備評價法第二條ノ規定ニ依リ日本銀行、朝鮮銀行及臺灣銀行ガ政府ニ納付スベキ金額竝ニ日本銀行金買入法第五條第二項及第六條ノ規定ニ依リ日本銀行ガ政府ニ納付スベキ金額ハ之ヲ本資金ニ受入ルベシ
第三條 本資金ハ總額五千萬圓ヲ限リ豫算ノ定ムル所ニ依リ之ヲ産金ノ増加ヲ圖ル爲必要ナル費途ニ使用スルコトヲ得
前項ノ規定ニ依リ本資金ヲ使用セントスルトキハ其ノ金額ヲ一般會計又ハ他ノ特別會計ノ歳入ニ繰入レ當該會計ノ歳出トシテ拂出スベシ

第四條 本資金ハ本會計ニ屬スル經費ヲ支辨スル爲必要ナル金額ヲ除クノ外大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ之ヲ金、國債、産金振興債券、日本産金振興株式會社株式(額面總額二千五百萬圓ヲ限ル)又ハ勅令ノ定ムルモノニ運用スルコトヲ得



本資金ノ運用ニ關スル事務ハ大蔵大臣ノ定ムル所ニ依リ日本銀行ヲシテ之ヲ取扱ハシム

第五條 本會計ニ於テハ資金運用利殖金及附屬雜收入ヲ以テ其ノ歲入トシ第三條ノ規定ニ依ル一般會計ノ雜入金、事務取扱費、資金運用手数料、附屬諸費及資金運用損失金ヲ以テ其ノ歲出トス

第六條 本資金ニ屬スル資産ニシテ價格ノ減損ヲ生ジタルモノアルトキハ本會計ノ決算上生ジタル剩餘又ハ資金ヨリ之ヲ償却スベシ

第七條 本會計ノ決算上剩餘ヲ生ジタルトキハ前條ノ償却ニ充テ殘餘アルトキハ之ヲ資金ニ繰入ルベシ

第八條 政府ハ毎年本會計ノ歲入歲出豫算ヲ調製シ歲入歲出ノ總豫算ト共ニ之ヲ帝國議會ニ提出スベシ

第九條 本會計ノ毎年度歲出豫算ニ於ケル支出殘額ハ之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

第十條 本會計ノ收入支出ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
(昭和十二年勅令第四百五十六號ヲ以テ昭和十二年八月二十五日ヨリ施行)

兌換銀行券條例第二條第五項ノ借入金及日本銀行金買入法第四條ノ債務ハ本會計ノ負擔トス

大 日 本 帝 國 政 府

費 目	他會計繰入額内譯調			
	昭和十二年度	昭和十三年度	昭和十四年度	昭和十五年度
(一)内地				
探鑛獎勵金	三〇二	二、四〇一	三、一七一	五、一七一
選鑛場及製鍊場建設獎勵金	1	二、〇四九	五、一四三	一、九三〇三
產金振興會社損失補償	1	1	一、六九五	一、五一一
送電設備補助	1	1	一、六九五	二、六七七
其 他	六一二	九一二	一、七四	五、四九五
計	九一四	五、三六二	一〇、一八三	三、四一五七
(二)朝鮮				
探鑛獎勵金	1	1	一、〇二〇	五、八八〇
鑿岩設備補助	1	1	七六六	二、〇四五
砂金採取設備	1	1	1	三、二二五

(單位 千圓)

大日本帝國政府

(五) 合計	(四) 南洋	(三) 臺灣 砂金地帶調查等	計	其他	金密輸出取締	送電設備	金山道路改修費	選鑛製鍊設備
九一四								
五三六二								
一六四九二			四一四九	七四八			一〇〇三	六一二
六七七二七	五〇	六四三七	二七五二三	一二三七	七四九	一六三二	三七五〇	八九九五

金資金特別會計法中改正法律案

金資金特別會計法中左ノ通改正ス

第三條第一項中「五千萬圓」ヲ「一億圓」ニ改メ「産金ノ増加」ノ下ニ「及金ノ集中」ヲ加フ

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

金資金特別會計法中改正法律案理由書

現下ノ時局ニ顧ミ産金ノ増加及金ノ集中ヲ促進スル爲金資金特別會計法中改正ヲ要スルモノアリ
是レ本案ヲ提出スル所以ナリ

大甲第八六號

案起

昭和十五年

月

日

閣議決定

昭和十五年

三月五日

施行

昭和十五年四月一日

公布

內閣總理大臣 五

內閣書記



內閣書記官

外務大臣

五

陸軍大臣

五

文部大臣

五

遞信大臣

勝

厚生大臣

五

內務大臣

五

海軍大臣

五

農林大臣

五

鐵道大臣

五

大藏大臣

五

司法大臣



商工大臣



拓務大臣



別紙兩院ノ議決ヲ經テ陸軍作業會計法陸軍航空工廠資金特別會計法及海

軍工廠資金會計法ノ臨時特例ニ關スル法律案ヲ審査スルニ右ハ貴族院議長上奏ノ通裁可ヲ奏請セラレ可然ト認ム

上諭案

朕帝國議會ノ協贊員ヲ經タル陸軍作業會計法、陸軍航空工廠資金特別會計法及海軍工廠資金會計法ノ臨時特例ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布

セシム

御名 御璽

昭和十五年三月三十日

内閣總理大臣

大藏大臣

陸軍大臣

海軍大臣

法律第七十九號

(上奏ノ通)

内閣

貴族院ハ兩院ノ議ヲ經タル
陸軍作業會計法、陸軍航空
工廠資金特別會計法及海
軍工廠資金會計法ノ臨時
特例ニ關スル法律案ノ裁可
ヲ奏請ス

昭和十五年三月二十四日

貴族院議長伯爵松平賴壽



政府ハ支那事變ニ際シ陸軍用又ハ海軍用ノ兵器又ハ造船、造兵若ハ製絨ノ材料物品ノ製造又ハ修理ヲ營ム軍需品工場事業場ニ於テ其ノ材料物品ノ一部不足シ陸軍造兵廠、千住製絨所、陸軍航空工廠資金又ハ海軍工廠資金ノ各特別會計ニ屬スル材料物品ヲ供給スルニ非ザレバ當該製造又ハ修理ヲ完成シ得ザル場合ニ於テ特ニ必要アルトキハ陸軍作業會計法、陸軍航空工廠資金特別會計法及海軍工廠資金會計法ニ拘ラズ勅令ノ定ムル所ニ依リ當該特別會計ノ經營ニ妨ナキ限り當該事業主ニ對シ當該特別會計ニ屬スル材料物品ヲ賣拂フコトヲ得

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

陸軍作業會計法、陸軍航空工廠資
金特別會計法及海軍工廠資金會
計法ノ臨時特例ニ關スル法律案

右衆議院ノ議決ヲ經タル政府提出案本院ニ於
テ可決セリ依テ御執奏相成度議院法第三十一
條ニ依リ此段申進候也

昭和十五年 三月二十四日

貴族院議長伯爵松平賴壽



内閣總理大臣米内光政殿



陸軍作業會計法陸軍航空工廠資金特別會計法及海軍工廠
資金會計法ノ臨時特例ニ關スル法律案帝國議會ニ提出ノ件
右謹テ裁可ヲ仰ク

昭和十五年三月十二日

內閣總理大臣米內光政



日
月

大甲八六

三月十一日

昭和十五年三月十二日

内閣書記官長

内閣書記官



内閣總理大臣 近

法制局長官



外務大臣

近

陸軍大臣

近

文部大臣

近

遞信大臣

近

厚生大臣

近

内務大臣

近

海軍大臣

近

農林大臣

近

鐵道大臣

近

大藏大臣

近

司法大臣

近

商工大臣

近

拓務大臣

近

別紙大藏陸軍海軍三大臣請議陸軍作業會計法、陸軍航空工廠

資金特別會計法及海軍工廠資金會計法、臨時特例ニ關スル法律案

ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ請議ノ通

法制局

閣議決定帝國議會ニ提出セラレ可然ト認ム

法律案

呈案附箋ノ通

陸軍作業會計法、陸軍航空工廠資金特別會計
法及海軍工廠資金會計法ノ臨時特例ニ關スル
法律案

右

勅旨ヲ奉ジ帝國議會ニ提出ス

昭和十五年 三月十二日 衆

內閣總理大臣

大藏大臣

陸軍大臣

海軍大臣

大瀧 大 臣

内閣總理大臣

明治二十一年三月十一日

陸軍大臣 大 臣

右

海軍大臣

海軍大臣 大 臣

海軍大臣 大 臣

法制局
昭和

主任者主計局調査課長前田大藏書記官

支那事變ニ際シ特ニ必要アルトキハ陸軍造兵廠、千住製絨所、陸軍航
空工廠資金又ハ海軍工廠資金ノ各特別會計ニ屬スル材料物品ヲ陸軍用
又ハ海軍用ノ兵器又ハ造船、造兵若ハ製絨材料物品ノ製造又ハ修理ヲ
營ム者ニ對シ賣拂フコトヲ得ルコトト爲スノ必要アルヲ以テ右ニ關ス
ル法律案ヲ第七十五回帝國議會ニ提出セントス
仍テ別紙法律案竝ニ同理由書ヲ具シ茲ニ閣議ヲ請フ

昭和十五年三月九日

大藏大臣 櫻 内 幸 雄



大甲 八六

大 藏 省

內閣總理大臣
米內光政殿

陸軍大臣
畑俊六

海軍大臣
吉田善吾



大藏省

政府ハ支那事變ニ際シ

ハ海軍用ノ兵器又ハ造船、造兵若ハ製絨材料物品ノ製造又ハ修理ヲ營
ム軍需品工場事業場ニ於テ其ノ材料物品ノ一部不足シ陸軍造兵廠、千
住製絨所、陸軍航空工廠資金又ハ海軍工廠資金ノ各特別會計ニ屬スル
材料物品ヲ供給スルニ非ザレバ當該製造又ハ修理ヲ完成シ得ザル場合
ニ於テ特ニ必要アルトキハ陸軍作業會計法、陸軍航空工廠資金特別會計法及
主ニ對シ當該、特別會計ニ屬スル材料物品ヲ賣拂フコトヲ得

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

陸軍作業會計法、陸軍航空工廠資金特別會計法、
及海軍工廠資金會計法ノ臨時特例ニ關スル法律、
案理由書

支那事變ニ際シ特ニ必要アルトキハ陸軍造兵廠、千住製絨所、陸軍航
空工廠資金又ハ海軍工廠資金ノ各特別會計ニ屬スル材料物品ヲ陸軍用
又ハ海軍用ノ兵器又ハ造船、造兵若ハ製絨材料物品ノ製造又ハ修理ヲ
營ム者ニ對シ賣拂フコトヲ得ルコトト爲スノ要アリ是レ本案ヲ提出ス
ル所以ナリ



通知

大甲六二ノ属

本案トハ別途請議ノ
(大甲八六)
陸軍作業者會計法、陸軍航空工廠資金
特別會計法及海軍工廠資金會計法
ノ臨時特例ニ関スル法律案ナリ

別會計法ノ臨時特例ニ關スル法律案」ハ本案ニ包含セラレタルヲ以テ
廢案トスルコトニ致度

此段及御依頼候也

昭和十五年三月九日

大藏省主計局調査課長



内閣總務課長殿

大甲六二ノ属

大藏省

法制局大第五一號

昭和十五年二月十日

主任者主計局調査課長前田大藏書記官

官秘 第二八號

法制局

承知

支那事變ニ際シ特ニ必要アルトキハ陸軍航空工廠資金特別會計法ノ規定ニ拘ラズ陸軍航空工廠資金特別會計ニ屬スル材料物品ヲ陸軍航空兵器ノ製造又ハ修理ノ爲當該製造又ハ修理ヲ營ム者ニ對シ賣拂フコトヲ得ルコトト爲スノ必要アルヲ以テ右ニ關スル法律案ヲ第七十五回帝國議會ニ提出セントス

乃テ別紙去律案竝ニ同理由書ヲ具シ茲ニ閣議ヲ請フ

昭和十五年二月十日

發

案

大藏大臣 櫻 内 幸 雄



大藏省

大平 六二

6.

内閣總理大臣 米内光政 殿

陸軍大臣 畑

俊六



大藏省

政府ハ支那事變ニ際シ特ニ必要アルトキハ陸軍航空工廠資金特別會計
法ノ規定ニ拘ラズ陸軍航空兵器（陸軍ニ於テ徵用シタル航空機ヲ含ム）
ノ製造又ハ修理ヲ營ム者ニ於テ其ノ材料物品ノ一部不足シ陸軍航空工
廠資金特別會計ニ屬スル材料物品ヲ供給スルニ非ザレバ當該製造又ハ
修理ヲ完成シ得ザル場合ニ於テ陸軍航空工廠資金特別會計ノ經營ニ妨
ナキ限り其ノ者ニ對シ陸軍航空工廠資金特別會計ニ屬スル材料物品ヲ
賣拂フコトヲ得

附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

陸軍航空工廠資金特別會計法ノ臨時特例ニ關ス
ル法律案理由書

支那事變ニ際シ特ニ必要アルトキハ陸軍航空工廠資金特別會計法ノ規定ニ拘ラズ陸軍航空工廠資金特別會計ニ屬スル材料物品ヲ陸軍航空兵器ノ製造又ハ修理ノ爲當該製造又ハ修理ヲ營ム者ニ對シ賣拂フコトヲ得ルコトト爲スノ要アリ是レ本案ヲ提出スル所以ナリ

大藏省

參照

●陸軍作業會計法

明治二十三年三月十八日
法律第十八號

改正 明治三十五年第四六號、四五年第一〇號

陸軍作業會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム (總理、大藏、陸軍大臣副署)

陸軍作業會計法

- 第一條** 東京砲兵工廠大阪砲兵工廠及千住製絨所ハ其事業ヲ經營スル爲メ
固定資本据置運轉資本ヲ置キ作業上ノ收入及其附屬雜收入ハ作業ノ費用
ニ充ルコトヲ許シ特別ノ會計ヲ立テシム
- 第二條** 東京砲兵工廠大阪砲兵工廠ニ於テハ從來使用シ及將來增加スル所
ノ土地建物其他工作物船舶機械及重要ナル器具ヲ以テ固定資本トシ從來
ノ營業資本額ヲ以テ据置運轉資本トス
- 千住製絨所ニ於テハ從來使用シ及將來增加スル所ノ土地建物其他工作物
機械及重要ナル器具ヲ以テ固定資本トシ從來ノ營業資本額ヲ以テ据置運
轉資本トス
- 第三條** 東京及大阪砲兵工廠ハ俸給諸給旅費應費職工人夫ノ諸費材料素品
及機械運轉用品ノ購入費土地建物其他工作物船舶機械器具ノ維持修理及
補充費工場場ノ雜費並ニ損失金ヲ作業ノ歲出トス
- 千住製絨所ハ俸給諸給旅費應費生産品販賣ノ諸費職工人夫ノ諸費材料素
品及機械運轉用品ノ購入費土地建物其他工作物機械器具ノ維持修理及補
充費工場場ノ雜費並ニ損失金ヲ作業ノ歲出トス
- 第四條** 各作業所特別會計ノ歲出額ハ豫算定額内ニ於テ實際ノ歲入及据置
運轉資本ノ合計額ヲ超過スルヲ許サス
- 第五條** 作業所ノ純益及固定資本ニ屬スル物件ノ賣拂代金ハ總テ一般ノ歲
入ニ編入スヘシ



内
目

- 第六條 政府ハ毎年各作業所特別會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト俱ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ
- 第七條 豫算外ニ軍用品ノ製作修理ヲ要スル場合ニ於テ其費用ヲ補フ爲メ各作業所ノ歳出豫算ニ豫備費ヲ設ルコトヲ得
- 第八條 各作業所ニ於テ機械器具材料素品及機械運轉用品ヲ外國ヨリ買入ル、トキハ前金拂ヲ爲スコトヲ得
- 第九條 各作業所特別會計ノ收入支出ニ關スル規程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第十條 本法ハ明治二十三年度ヨリ施行ス其帝國議會ニ關涉スルモノハ帝國議會開會後ノ會計年度ヨリ施行ス

參照

●海軍工廠資金會計法

明治三十八年二月十六日
法律第十五號

改正 大正八年第一〇號
昭和十四年第四號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル海軍工廠資金會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
▲(總理、海軍大臣、海軍大臣副署)

海軍工廠資金會計法

- 第一條 海軍造船及造兵ノ工廠ニ於ケル材料物品貯蓄ノ資本トシテ海軍工廠資金ヲ置キ特別ノ會計ヲ立テシム
- 第二條 海軍工廠資金ハ五千萬圓トシ漸次一般會計ヨリ繰入ス
- 第三條 海軍工廠資金會計ニ屬スル材料物品ヲ使用スルトキハ海軍省所管經費ヲ以テ之ヲ購入スヘシ
- 第四條 海軍工廠資金ヲ以テ貯蓄シタル材料物品ノ損滅ハ豫メ歩合ヲ定メテ材料物品ノ原價ニ加算スヘシ
- 第五條 海軍工廠ノ事業ニ使用シタル材料ノ殘存廢棄船取外シ物品廢船舟及廢兵器ニシテ更ニ材料トシテ使用シ得ヘキモノハ海軍工廠資金會計ノ材料ニ租入ルルコトヲ得
- 第六條 每會計年度ニ於テ海軍工廠資金特別會計ノ決算上該資金額ニ過剩ヲ生スルトキハ其ノ過剩金ヲ同年度一般ノ歳入ニ編入スヘシ
- 第七條 政府ハ毎年海軍工廠資金特別會計ノ歲入歳出豫算ヲ調整シ歳入歳出ノ總豫算ト俱ニ帝國議會ニ提出スヘシ
- 第八條 海軍工廠資金特別會計ノ收入支出ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

- 第九條 第二條ハ海軍造船材料資金會計法第六條及海軍造兵材料資金會計法第六條ノ過剩金ニ相當スル金額ニシテ未タ資金ニ増加ヲ了セサルモノニモ之ヲ適用ス



參照

陸軍航空工廠資金特別會計法案

陸軍航空工廠資金特別會計法

第一條 陸軍航空兵器製造修理ノ工廠ニ於ケル材料物品準備保有ノ資本トシテ陸軍航空工廠資金ヲ置キ其ノ歳入歳出ハ一般會計ト区分シ特別會計ヲ設置ス

第二條 陸軍航空工廠資金ハ五百萬圓トシ一般會計ヨリ繰入ルルモノトス

第三條 本會計ニ屬スル材料物品ヲ使用スルトキハ陸軍省所管經費ヲ以テ之ヲ購入スベシ

第四條 陸軍航空兵器製造修理ノ工廠ノ事業ニ使用シタル材料ノ殘材殘屑、航空兵器ノ取外シ物品及航空兵器ノ廢品ニシテ更ニ材料トシテ使用シ得ベキモノハ本會計ノ材料ニ組入ルルコトヲ得

第五條 每會計年度ニ於テ陸軍航空工廠資金ノ受拂決算上過剩ヲ生ズルトキハ其ノ過剩金ハ之ヲ同年度一般ノ歳入ニ繰入ルベシ

第六條 政府ハ毎年本會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト共ニ之ヲ帝國議會ニ

提出スベシ

第七條 本會計ノ收入支出ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法ハ昭和十五年度ヨリ之ヲ施行ス

陸軍航空工廠資金特別會計法案理由書

陸軍航空兵器製造修理ノ工廠ニ於テ其ノ經營ニ必要ナル材料物品ヲ準備保有スル爲其ノ資本トシ
テ陸軍航空工廠資金ヲ置キ其ノ歳入歳出ハ一般ノ會計ト區分シ特別ニ經理スルノ要アリ是レ本案
ヲ提出スル所以ナリ

材料官給ニ就テ

昭一五三一九

一、材料官給ノ概念並ニ其ノ合法化ノ必然性

物品ノ製造修理、加工並ニ工事請負契約等廣ク物件價値ニ當リ其ノ手段トシテ材料取得ノ難易、完成物件ノ品質確保、戰備材料ノ更新、材料ノ統一調劑並ニ時局下ニ於ケル軍需品ノ優先取得等諸般ノ關係ヲ顧慮シ官ニ於テ契約相手方ニ對シ物件製造修理、加工又ハ工事請負契約履行ニ要スル材料ヲ官給シ以テ調達ノ目的ヲ稱補スル行爲ヲ通常材料官給又ハ官材交付ト稱ス、勿論材料官給ニ就テハ現行法上ノ根據ナク又禁止スル規定ナキモ一般ニ多年ノ事實的慣習トシテ實行シ來レルモノナリ

右ノ場合官給材料ハ官ノ所有ニ屬スルヲ原則トスルヲ以テ材料
ハツレニヨツテ生産セラレタル製品ノ全部又ハ一部トナリテ官
ニ還元スルハ勿論殘材殘屑等ハ果クテ官ニ歸屬スヘキ性質ノモ
ノナリ、然ルニ現在實施シアル官材交付ノ方式ニハ材料品質ノ
關係上此ノ原則的ナル處理方法ニ依ルモノハ後述ノ材料品質
ニヨリテハ賣拂ト本質的ニ差異ナキ整理方式ハ後述ノノト探ルモ
ノトアリテ後者ハ官給材料ノ本質ニ關ルモノナリ、即チ材料ハ
製品トナルヘキ部分ノモ官ニ還元シ殘材殘屑等ハ相手方ノ所有
權ニ屬セシメ之ニ代ヘ契約價格ヨリ殘屑價格ヲ控除シアリ買價
的ニ人件費タル加工費等ヨリ物件費タル材料費ヲ相殺シテ加工

實等ヲ決定スルヲ通例トセリ　コレ本來ナラバ殘材殘屑ヲ返納セ
シノ官ニ於テ之ヲ賣却シ、ヨツテ生シタル代金ハ歳入ニ繰入ルベ
キモノナルモ豫算制度上カクテハ豫算ノ不足ヲ來ス虞アルヲ以テ
斯カル脫法行爲ヲ敢テセルモノナリ、勿論斯ノ如キハ豫算制度ノ
上ニ純計豫算制度ヲ採用シ且ツ人件費ト物件費豫算トノ混淆ヲ來
スモノニシテ現行會計制度ニ對スル一大冒濫行爲ナリ
今次事變ニ於テハ各作樂官廳等ニ於ケル材料ノ取扱數量ニ爆發的
ノ膨脹アリテ殘屑量及「ロス」量ノ算定ハ愈々困難トナリ且ツ會
計事務ノ複雜化ト之ニ伴フ事務簡捷ヲ目的トスル便宜主義トニヨ
リ更ニ一層前述ノ脫法的行爲ヲ採ラサルヲ得サル狀態ニ立至リ、

ニ材料官給ノ方式

材料官給ノ方式ニハ材料ノ性質ニヨリ大別シテ二種ノ方式アリ、
即チ

ノ材料使用ノ結果ガ比較的正確ニ把握シ得ル品種

コノ種ノ材料ノ交付ニ當ツテハ廢材殘屑等ノ算定比較的容易ナ
ルヲ以テ官ニ於テ過去ノ統計的資料等ニヨリ廢材殘屑ノ一定量
ヲ決定シ、右數量ハ生産後官ニ返納セシム、此種ノモノハ必ス
シモ賣拂ヲ必要トセザルモノナリ

例ヘハ 發條、螺子、煉瓦、木材等ハ之ニ屬ス

2 材料使用ノ結果ガ比較的正確ニ把握シ得ザル品種

コノ種材料ノ殘材殘屑等ハ算定困難ナルヲ以テ前項ノ如キ交付
方式ヲ採リ得ズ從テ本質上賣拂ト擇ブ所ナキ後述ノ如キ方法ニ
ヨリテ之ヲ整理シアリ

例ヘハ 各種ノ金屬及非鐵金屬素材、セメント、脂油、皮革、
染料等ハ之ニ屬ス

此ノ種ノ材料ノ賣付ノ交際ニ當リテハ其ノ種類ニ依リテ賣付ノ方法ヲ
決定スルニ當リテハ其ノ種類ニ依リテ賣付ノ方法ヲ決定スルニ當リテハ
其ノ種類ニ依リテ賣付ノ方法ヲ決定スルニ當リテハ其ノ種類ニ依リテ
賣付ノ方法ヲ決定スルニ當リテハ其ノ種類ニ依リテ賣付ノ方法ヲ

賣付ノ方法ヲ決定スルニ當リテハ其ノ種類ニ依リテ賣付ノ方法ヲ
決定スルニ當リテハ其ノ種類ニ依リテ賣付ノ方法ヲ決定スルニ當リテハ
其ノ種類ニ依リテ賣付ノ方法ヲ決定スルニ當リテハ其ノ種類ニ依リテ
賣付ノ方法ヲ決定スルニ當リテハ其ノ種類ニ依リテ賣付ノ方法ヲ

三 材料使用ノ結果ガ比較的正確ニ把握シ得ザル品種ニ對スル官給材料ノ整理方法

現在造兵廠等ニ於テ行ヒアル整理方法ハ大別シテ二種トナシ得ヘシ

(一) 契約價格中ニ官給材料代ヲ全ク顧慮セサル方式

材料ハ官給シ契約價格ハ單ニ製造費ノミニヨル但シ一定量以上ハ官ノ認定ニヨルノ殘層ハ官ニ返納セシム

現在造兵廠東京工廠ニ於テ、信管及火具製造用黃銅及銅ハコノ方式ニヨル、而テ契約相手方ニ於テ若シ一定量ノ層ヲ返納シ得サルトキハ時價ニ換算シ代金ヲ徴シアリ

(二) 契約價格中ニ官給材料代ヲ顧慮スル方式

材料ハ官給スルモ契約價格中ヨリ一定量(官ノ認定ニヨル)ノ
消耗スベキ部分及殘層價格ヲ差引キ殘層ハ契約相手方ノ所有ニ
歸屬セシムルカ又ハ其ノ處分ニ一定ノ制限ヲ付スルモノ
現在遺兵廠ニテ實施シアルモノニシテコレハ更ニ二種ニ細別シ
得

I 例へバ彈丸部品タル軟鋼、鉛鋼等ハ其ノ殘層ノ處分ハ相手方

ノ自由意思ニ委ス(但シ現在ニ於テハ法令ニヨリ金屬層ハ統
制會社又ハ指定仲介人へ賣却シアルモノトス

II 例へバ彈丸鋼、砲身鋼等ノ特殊鋼ノ層ハ其ノ處分ヲ相手方ノ

自由意思ニ委セズ其ノ賣拂先チ陸軍ニ鋼材ヲ供給スル時殊鋼製鋼會社ニ指定シ之ガ實行ヲ直轄セシムルモノトス

(註)

現在造兵廠ニ於テ行ヒアル最低殘屑ノ算定方法ノ例ハ次ノ如シ

一

鋼材ノ賣拂ノ算定ニ關シ

ニ殘屑ヲ官ニ返納シ又ハ官ノ指定スル製鋼會社等ニ賣拂ハシ

ムル場合ノ殘屑量ハ契約上其ノ最低限ヲ示シ同量以上ヲ返

納又ハ賣拂ノ義務ヲ負ハシノアルモノトス

又ハ賣拂ノ義務ヲ負ハシノアルモノトス

三 殘屑ノ算定ハ材料ノ品種、工場設備及技術ノ巧拙並ニ加工
製造等ノ方式 其ノ他ノ諸條件ヲ異ニスル場合ニ在リテモ
劃一的ナル算定方式ヲ採ルノ外ナキタノ實質的ニハ殘屑量
ニ著シキ差異ヲ生ズルヲ免レサルモノトス

四 原料ノ品質ニ依リテ生ズル差異ノ算定ハ原料ノ品質ノ

均一ナルヲ要スルモノトシテ原料ノ品質ノ均一ナルヲ要スルモノトス

五 原料ノ品質ノ均一ナルヲ要スルモノトシテ原料ノ品質ノ均一ナルヲ要スルモノトス

四 材料官給ニ伴フ會計事務整理

材料官給ハ材料ノ所有權ヲ歸スル官ニ歸屬スル爲メ物品會計官吏ノ責任、危險負擔及會計事務整理ノ點ヨリ實効ニ比シ極メテ煩瑣ナリ

物品會計官吏ハ材料官給ノ時ヨリ製品及殘材殘屑ノ返納受入ニ至ル迄當該材料ニ付會計法上ノ責任ヲ有ス又物品監守者チシテ監守セシムル場合ニ於テモ合規ノ監督ヲ行フ責任ヲ有ス、又物品監守者ニ於テモ右同様ノ責任ヲ負擔ス、コトハ事務繁務ノ影響ニ伴ヒ益々コレ等官吏ノ責任ヲ重加スルモノニシテ明ニ過度ノ責任ヲ強要スルモノナリ

2 材料ノ危険發擔責任ガ終始官ニ在ルコトハ自明ノ理ニシテ天災
地變ニヨル不可抗力ニヨル損害アル時ハ當然ニ官ノ損失トナリ
國庫ニ對シ大ナル不利ヲ招ク處大ナリ（民法第五三六條第一項）
一 材料賣拂ノ場合ニハ所有權ハ相手方ニ歸屬シ危險負擔ハ總テ
相手方ニアリ

3 官給材料ハ官物ナルヲ以テ之カ製造修理及ハ加工等ニ使用セラ
ルル場合ハ各課程ニ應シ保管出納生産粗替、整理等ノ業務概メ
テ繁雜ニシテ卒變下ニ於ケル業務量ノ龐大ナルト、從事人員ニ
不馴レナル召集者チ以テ充當スルトハ之ガ弊正確實チ顯スルコ
ト極メテ困難ナリ場合ニヨリテハ全ク不可能ニ陷ルコトアリ

官給材料ノ取扱ハ事務簡捷上止ムヲ得ズ契約書ハ劃一簡易ナル
モノトシ別ニ交付材料圖書ニ於テ各契約品種ノ異ナルニ從ヒ其
ノ細部ノ約款ヲ附記セルノミニシテ其ノ一般的契約條款ヲ缺ク
モノアル爲交付材料ニ關シ紛議ヲ生スル恐レアルト其ノ紛議ヲ
生シタル場合ニハ民法ノ原則ニ依テ處理スルヲ要シ解決ヲ困難
ナラシムルモノアリ

材料官給ノ利害

材料官給ト賣拂トノ利害關係ニ付テハ賣拂ヲ必要トスル事由説明書ニ依ルノ外左ノ如シ

ノ相手方利得ノ關係

殘屑量ノ算定ノ正確ヲ期シ難キモノニアリテハ材料官給ニヨリテハ時ニ過剩ニ材料ヲ交付スルコトアルヘシコノ場合相手方ハ過剩部分ハ之ヲ民需ニ流用スヘシコノ際相手方ノ利益スル所ハ
STX
トナルニ反シ賣拂ノ場合ニ在リテハ假令過剩受ノ部分アリトスルモ其ノ利益トスル所ハ

$(P_1 - P_2)$ (B_2 の 残材 中 買入 額 代 金 の 部 分)

トナリ、官給材料ノ場合ニ比シ利得スル所小ナルハ自明ノ理ナ

リ況ヤ現下資本主義經濟ニ於ケル營利會社トシテハ營利的見地

ヨリ材料ノ拂下ヲ受ケル時ハ所要量ハ嚴密ニ査定シ決シテ過剩

ナサザルベキモノナルヲ以テ B_2 ハ常ニ B_1 ヨリハ小ナルカ或ハ

O ニ近キモノナルヘシ、故ニ常ニ左ノ不等式ハ成立ス

$B_1 > B_2$

又相手方ハ一定量ノ材料交付ヲ受ケルモ工場設備技術ノ巧拙其

ノ他ノ事由ニ依リ残材及残屑量ニ著シキ差異ヲ生シ技術優良ナ

ル爲残屑少キ場合ニハ相手方ヲ不當ニ利得セシムルコト多シ

2 品質ノ確保關係

官給材料ノ場合ハ官物ナルヲ以テ若シ之ヲ製品ニ使用セサル時ハ刑法上横領ノ罪乃至軍用物損壞ノ罪ヲ構成スルカ如キ制裁アリテ一見品質ノ確保ニ付テハ賣拂ノ場合ニ比シ有利ナルカ如キモ賣拂ノ場合ニ在リテモ私法的制裁方法（例ハハ解除條件付契約ヲ以テ當該材料ノ使用ヲ強要スルヲ得ルヲ以テコノ點ニ於テハ大ナル支障ナシ況ヤ賣拂ノ相手方ハ事變下ニ於テハ官ノ管理工場ナルカ又ハ官ノ監督嚴重ナル調辦工場に限定サルルニ於テオヤハ品質ノ確保ニハ以テモ私法的制裁ニ比シテ官給材料ノ場合ニ比シテ強要スルヲ得ルヲ以テコノ點ニ於テハ大ナル支障ナシ況ヤ賣拂ノ相手方ハ事變下ニ於テハ官ノ管理工場ナルカ又ハ官ノ監督嚴重ナル調辦工場に限定サルルニ於テ

3 材料交付量ノ適否關係

ハ過去ハ陸軍ニモハシテ

官給材料ニ在リテハ多クハ過去ノ統計等ニヨル推算ニヨリテ残
屑量ヲ見込ミ交付スルヲ以テ時ニ推算ニ誤差アリテ過剩ニ材料
ヲ交付スルコトアリ得ヘシ他方ニ於テ事變下ノ物資入手難ノ現
在ニ於テハ業者モ民需等ニ流用ノ目的ヲ以テ過剩ニ材料拂下ヲ
要求スルカ如キ虞アリテ之ニ對シ官ニ於テ嚴重ナル査定ヲ要ス
ルモノノ査定ノ基準ハ官給材料ノ場合ニ於ケルト同様ナレハコ
ノ點ニ於テモ官給材料ナルト材料賣拂ナルトニヨリテ大ナル差
異アルコトナシ

々其他官吏ノ責任、國家ノ危険負擔會計事務整理ノ複雜等ノ點ヨ
リ見レバ材料官給ヨリ材料賣拂ヲ有利トスルコトハ既述ノ通ト
ス

本 結 言

材料官給ニ就テハ何等法の根據ナク只禁止規定ナキニヨリ多年ニ
亘リ實行シアル既成ノ事實の慣習タル效力ヲ有スルニ過ギザレト
モ官物ハ他ク迄官物トシテ取扱フ會計法ノ精神ヨリ云ヘハ此ノ方
法ニヨリテ物件調達ノ目的ヲ達成シ得ルモノ（例ヘハ二ツノ品
種）ハ敢テ作業會計法上ニ認メサル非不用品賣拂ノ特例ヲ開クノ
要アラサルヘシ

然レトモ社會ニ於ケル客觀的狀勢ノ變化殊ニ事變ニ伴フ異常ナル
官廳及經濟機構ノ變革ニ對處スルモノトシテ既存ノ會計法規ハ
當然ニ必要ノ限度ニ於テ改善ヲナサザレハ遂ニ事實上ノ必要ニ迫

ラレ官廳自ラ脱法ヲナシシカモコノ脱法行爲ニ或種ノ今法性ガ附
與サルルニ至テハ法ハ其ノ權威ヲ失ヒ無用ノ存在トナリ終ルヘシ
於是現在材料官給ノ方法ニヨリ乍ラモ其ノ整理手續ノ殆ド賣拂ハ
本質的ニ撰ブ所ナキガ如キモノハ既ニ官並ニ經濟社會ニ於テ會計
法ガ舊套ヲ脱シ一進歩ヲナサザルヘカラザルコトヲ強ク要求シア
ル部分ナリ依テ社會ノ進歩殊ニ今事變下ニ於ケル特殊ナル要求ニ
適合スルガ爲メニハ必要ナル限度ニ於テ民間賣拂ノ制度ヲ開キ國
家ノ利益ニ奇與スル必要痛切ナリ

陸軍

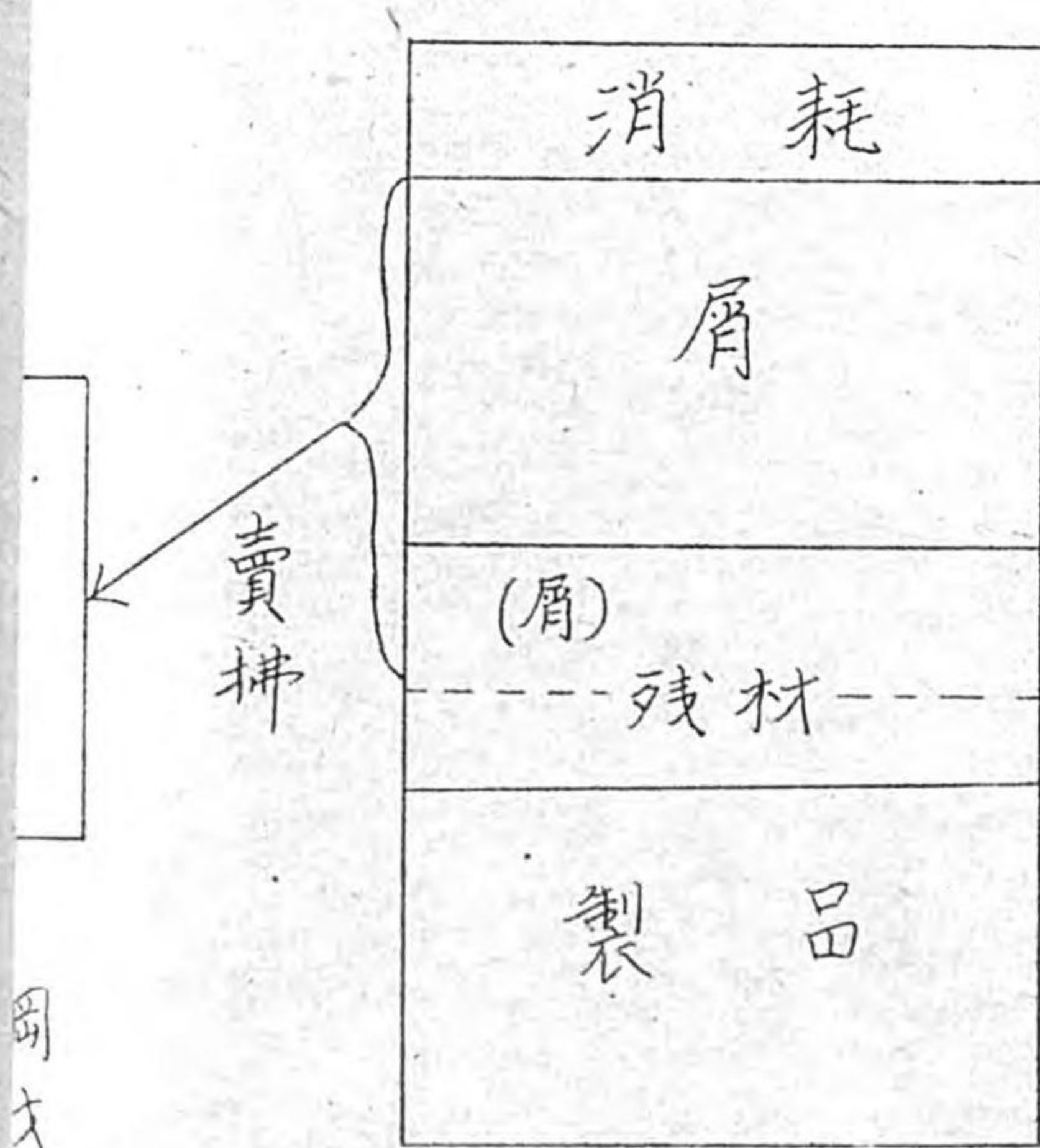
東京工廠ニ於ケル材料官給實績調

品 種 數 量 金

額

完成時

官材交付ノ一方式



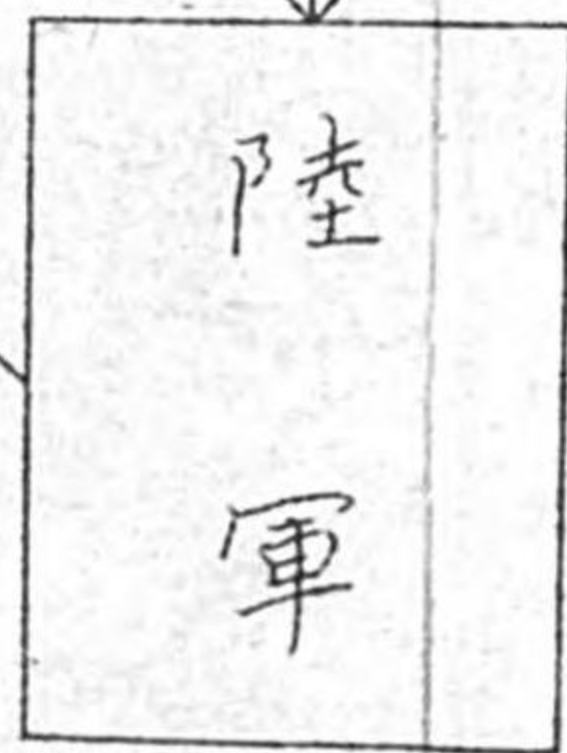
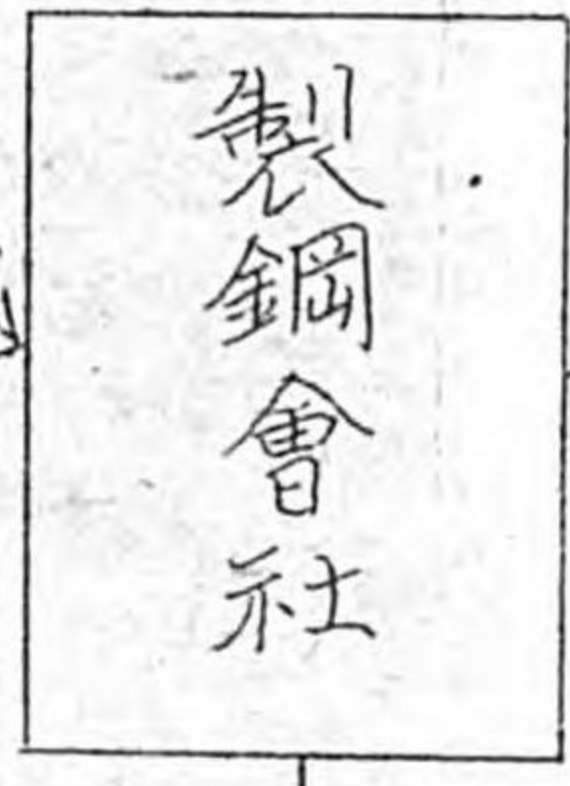
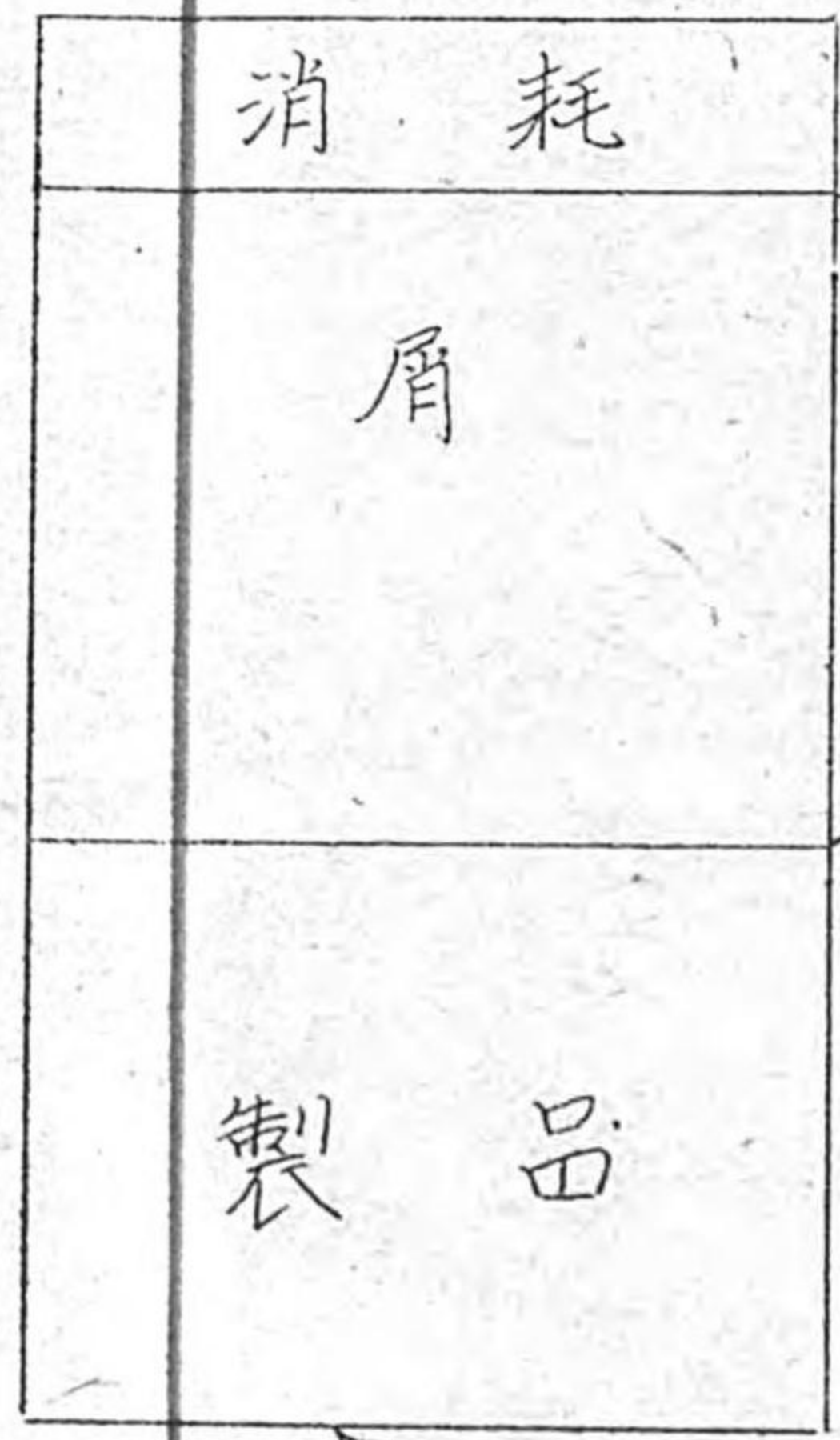
加工契約ノ場合

加工賃 - 屑消耗量 / 價格 = 契約單價

屑量算定ノ一例

交付材料 \times 95% - 製品重量 = 屑量

契約時



賣拂

賣拂

鋼材買入

材料交付

陸軍作業會計法、陸軍航空工廠資金特別會計法及海軍工廠
資金會計法ノ臨時特例ニ關スル法律案

政府ハ支那事變ニ際シ陸軍用又ハ海軍用ノ兵器又ハ造船、造兵若ハ製絨ノ材料物品ノ製造又ハ修理ヲ營ム軍需品工場事業場ニ於テ其ノ材料物品ノ一部不足シ陸軍造兵廠、千住製絨所、陸軍航空工廠資金又ハ海軍工廠資金ノ各特別會計ニ屬スル材料物品ヲ供給スルニ非ザレバ當該製造又ハ修理ヲ完成シ得ザル場合ニ於テ特ニ必要アルトキハ陸軍作業會計法、陸軍航空工廠資金特別會計法及海軍工廠資金會計法ニ拘ラズ勅令ノ定ムル所ニ依リ當該特別會計ノ經營ニ妨ナキ限り當該事業主ニ對シ當該特別會計ニ屬スル材料物品ヲ賣拂フコトヲ得

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

陸軍作業會計法、陸軍航空工廠資金特別會計法及海軍工廠資金會計法ノ

臨時特例ニ關スル法律案理由書

支那事變ニ際シ特ニ必要アルトキハ陸軍造兵廠、千住製絨所、陸軍航空工廠資金又ハ海軍工廠資金ノ各特別會計ニ屬スル材料物品ヲ陸軍用又ハ海軍用ノ兵器又ハ造船、造兵若ハ製絨材料物品ノ製造又ハ修理ヲ營ム者ニ對シ賣拂フコトヲ得ルコトト爲スノ要アリ是レ本案ヲ提出スル所以ナリ